

日光街道400年の「おかし」と「いま」を同時に歩こう

日光街道に改称された元和3 (1617)年に街道・宿場とともに整備されたという日光街道。この日光街道は宇都宮までには栃州街道とも重なり、参勤交代をする奥州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した道で、宇都宮からは1つの宿場を経て日光に到着します。元禄の昔、臣僚や奥の細道の旅路の一部として通った日光街道のうち、栃木の宿場を自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、現在の姿もまた見つめ直してみませんか。

御徒マツラについて

日光街道に江戸千手堂の最初の宿場として日光の鐙石宿場まで21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は鐙石街道と重なっています。このマツラには、この21宿のうち栃木県内の野木から鐙石宿場までの12宿を中心に開設された宿場があります。これらの宿場の階級には藩人の宿として繁栄した当時の名残を多少とどめる鎌倉名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もめずめず。さらに道中の自然や伝統文化も幅広く感じられます。このマツラを活用して歩きながら、日光街道の「おかし」と「いま」をお楽しみください。

地図の凡例

■ 旧日光街道	● 名所・史跡	● その他のポイント
■ 一般国道	● トライル	■ 案内看板等
■ 主要地方道	● 公園	● 観光案内所
■ 一般県道	● 駐車場	● 官公庁
■ 有料道路	● 立木道	

鐙石街道の途中部分にあり、鎌倉の名ももたらしたといわれる神社です。鐙石は天平6(734)年の藤原氏の乱の最中亡くなった中世の禊野で、土壁や塙、天守台・舟形などが見えています。国指定史跡となっています。



1 鐙石神社(鐙石跡)



2 安房神社

天慶2(939)年、國額秀郷が平河門討伐のため鎧装を新調し、守護神として平河信仰したといわれます。また、中世にも小山宿城・佐野氏や古河公足利氏などの楯匠からも崇敬を受けたとはいわれる神社です。



3 旧日光街道跡

参勤交代で賑わった宿場 間々田宿

古くは真々田、横田とも呼ばれた間々田は、元和4(1618)年に宿場となりました。間々田宿は小山宿・新田宿とともに奥州の諸大名の参勤交代に利用される「か、壬生通りの旗本宿も含めて日光へ参詣する大名が旅籠りに用いられ、重要な位置を占める宿場でした。松尾芭蕉も宿泊地に選んだようですが、どのあたりの宿だったかは定かではありません。天保14(1843)年の記録によると、宿内には本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠50軒あり、毎年7月11日と12月26日には市が立ったようです。また、米の積み出しに利用された乙女河岸は、江戸側を通じて物資輸送の重要な役割を担っていました。



4 間々田八幡宮

間々田宿の原形で、天平年間(729~749)の勧請と伝えられています。境内には弘法大師の句碑や古地や種敷などお水の前(ぼた)があります。また、5月5日に行われる「盆祭り」の中心地にもなっています。



5 浄光院

以前は強法師寺と称していたといわれています。境内には鐘堂があり、江戸時代の石造仏堂も残っています。現在の本堂は安永4(1775)年の再興とされ、昭和86(1961)年に上部を改装しました。



6 兼昌寺

慶安4(1651)年、關川藩光の遺族を日光廟(大猷院)に勧送の途中で、この寺に遺族の安置所が設けられました。現在、その御霊屋はあられませんが、そばに由来碑が建てられ、位階亭に伝えられています。



7 兼龍寺・乙女不動尊

慶和6(1691)年11月または間々田郡入道某高僧付近にありましたが、区画整理で現在地に移動しました。境内には松尾芭蕉の句碑があるほか、江戸時代の特徴的、手水石、灯籠などの石造物が並んでいます。



8 乙女河岸跡

この河岸は下野国内膳郡と江戸などを結ぶ河川交通の要路として、重要な役割を果たしていました。近くの乙女小学校には、この河岸から出土した鳥居の一部と考えられる石柱があります。



9 乙女八幡宮

参道には元禄16(1703)年の2重の鳥居があり、市指定の文化財となっています。また、手水石は正徳元(1711)年のもので、現時点で内部で確認されている歴史的なものがあります。



10 乙女八幡宮

11 馬頭観世音

12 乙女不動尊

13 蓮の橋

14 伝馬寺

15 行基寺

16 浄光院

17 兼昌寺

18 乙女不動尊

歴史の道

栃山公園と小山市立博物館を結ぶ全長約12kmの「歴史の道」には、小山の文化財が豊富にあります。沿道には遊覧車も整備されていて、小山の歴史に思いをはせるにはもってこい。ぜひ歩いてみましょう。

手觸みの組ひも。その技法は鎌倉時代の伝説を基盤としています。カワノケ、甲冑の組ひもとして使われていたが、今は提燈や羽織袖などに民芸品として珍重されています。



旧日光街道跡

大田畑の北側に国道4号に沿って小道があります。ここが本来の日光街道の名残り。近頃は人夫や旅人の休憩場であったといわれています。



19 行基寺

慶安元(1654)年に白鳥村から移転して建てたと伝えられています。



20 蓮の橋

ここから江戸へ18里、日光へ18里で、ちょうど中間に位置していた橋であったため「蓮の橋」と呼ばれていた。蓮の花の根に委ねられ、蓮の葉が建てる蓮根の根を渡り、お参りする男女が多かったといわれています。



21 乙女不動尊

奈良時代、下野朝野など五重塔を造ったといわれます。現在は史跡として見られます。



22 馬頭観世音

文禄6(1597)年の馬頭観世音で、蓮葉を構えている。お厩に石山川、いづまに祀られています。



23 伝馬寺

寛文2代(1723)年の馬頭観世音で、蓮葉を構えている。お厩に石山川、いづまに祀られています。



下野しほり

通称によって伝えられたといわれる鎌倉時代、江戸時代には「下野ちおれ」として、その名が知られています。女性の括弧用紙、襦子などに用いられていますが、現在は人形など室内装飾品が多く作られています。

鎌倉の小道

江戸時代の乙女河岸の賑わい

現在、乙女八幡宮があるあたりに乙女河岸の賑わいがありました。この河岸は江戸時代の河川交通の要路として、政治・経済・文化において重要な役割を果たしていたと考えられます。特に、慶長5(1600)年、間々田の賑わい前には倉庫の上段に氏家の御殿の建物が建てられ、小山町で、徳川家康が江戸に帰陣するごきの御座敷にもなりました。家康の死後、日光東照宮(後の日光東照宮)が造営されていく過程で、寛文の建物は壊れ、日光東照宮とも呼ばれました。ここには江戸の河川交通の賑わいがありました。日光の御用荷物だけでなく、鎌倉の荷物や商人の荷物、周辺の村々の方々の年貢米の積み出し場ともなり、江戸側を通じて重要な河岸となっていたのです。小山市立博物館には、この乙女河岸の模型が展示されており、江戸時代の賑わいの様子が一目でわかるようになっています。

